

中島映画撮影製作所ニュース映画『みなとの祭』と松蔭

木羽 康真

神戸松蔭女子学院大学人間科学部

Author's E-mail Address: baki_baki64@hotmail.com

Nakajima Factory's Newsreel 『MINATO-MATSURI』 and SHOIN

KIBA Yasumasa

Faculty of Human Sciences, Kobe Shoin Women's University

Abstract

本研究は昭和8年に神戸市内各地でさまざまな催しが行われた、神戸市の一大行事「みなとの祭」の貴重なフィルムに残された映像から、松蔭女学院の歴史を探し出すものである。中島映画撮影製作所のニュース映画は第2次世界大戦の神戸大空襲によって全て焼失したと思われていた。しかし、神戸にゆかりのあるスイス人、故ウーゴ・アルフォンス・カザール (Ugo Alfons Casal: 1888年～1964年) が大切に保管していた16巻の16mmフィルムの一つに、中島映画製作所のニュース映画が存在した。「昭和八年十一月(神戸市民祭) みなとの祭」と題されたこのフィルムは、現在確認される唯一の中島映画撮影製作所のニュース映画である。

1933年(昭和8)11月7日と8日に初開催された「みなとの祭」の催し物の一つに「祭の女王戴冠式」がある。祭の女王は神戸市8区の各区の代表(祭の王女)を選出し、優勝者(祭の女王)が選ばれる現在のミス・コンテストだ。この「祭の女王戴冠式」の兵庫区代表に松蔭生が選ばれていた。名前は「松田演子」(まつだのぶこ)といい、松蔭中学校・高等学校や千と勢会(同窓会)を調査することによって1931年(昭和6)に松蔭高等女学校を卒業していたことが分かった。この出来事は松蔭女学院の歴史資料には記されておらず、新たな発見となった。

また本フィルムには松田演子をはっきりと映っている。松蔭女子学院は松蔭高等女学校時代に神戸大空襲の被害にあったことから、戦前の歴史資料がほとんど残っておらず、松蔭生を映す最古の動画であることも調査から判明した。

The purpose of this study is to explore the history of SHOIN in a left image among the rare film of a

significant event 'MINATO-MATSURI' where various incidents were taken place among many parts of Kobe city in 1933. It was thought that the film of whole Nakajima factory's newsreel was burned down. But one of the 16 volumes of 16 mm film which the late Ugo Alfons Casal (1888-1964), who had connection with Kobe city, have kept carefully included Nakajima factory's newsreel.

This film entitled "November 1933 (Showa 8) 'Kobe Citizen Festival' MINATO-MATSURI" is today the only identified one.

'Queen Coronation of the Festival' which was one of the events in 'MINATO-MATSURI' held for the first time on 7th and 8th November 1933. 'The Queen of the Festival' is present-day miss contest. She was elected from among 8 representations (the Princess of Festival) of each ward in Kobe city. A student of SHOIN had elected as the representation of Hyogo ward in this 'coronation'. The student is Nobuko Matsuda. Through researching year books and other materials of SHOIN Junior and Senior High school and Chi-to-Se kai (alumni association), I discover that she graduated SHOIN Women's high school in 1931. This important event has not been documented in history of Shoin Womaen's. The above fact become new discovery.

Historical materials before World War II had been almost lost, because Shoin Womaen's suffered the Great Kobe Air Raid during SHOIN Women's high school. The film clearly image Nobuko Matsuda. Therefore the research also reveal that this film is the oldest one which imaged the student of SHOIN.

キーワード：1933 年、女学校、神戸、U.A. カザール、小磯良平

Key Words: 1933, Girl's school, Kobe, Ugo Alfons Casal, Koiso Ryohei

1. はじめに

本研究は1933年（昭和8）に神戸市内各地でさまざまな催しが行われた、神戸市の一大行事「みなとの祭」の貴重なフィルムに残された映像から、松蔭女学院の歴史を探し出すものである。

第1回みなとの祭の開催日11月7日は休日に指定され、小中学校も休校となったことや来客数も1933年（昭和8）11月8日号の「神戸新聞」には「みなとの祭 昨日の人出百萬突破！」との見出しが掲載されていたことから、当時の松蔭女子学院の生徒も祭りを見学しに行ったのではと予想を立て、確認作業を行った。

2. 16mm フィルムの発見と U.A. カザール

錆び付いた金属製（直径180mm）の丸い缶にレトロなデザインの丸いラベルが貼り付けられている（図①を参照）。経年の劣化がみられるが、ラベルには「MINATO-MATSURI ■ 劇 全■巻 神戸市湊町三丁目 中島映画撮影製作所 電話特長湊川三三二五番」（■は空白）と記されている。

タイトルの「MINATO-MATSURI」は手書きで記されている。缶を開けてみるとリールに巻



図① フィルム缶とラベル

かれたフィルムが入っていた。フィルムの規格は 16mm で長さが約 400feet ある。

この他にも、同じ大きさの缶に入ったフィルムが 7 巻と CINE-KODAK PANCHROMATIC SAFETY FILM (50feet) と記された箱に入ったフィルムが 8 巻の合計 16 巻ある。

これらフィルムは、神戸にゆかりのあるスイス人、ウーゴ・アルフォンス・カザール (Ugo Alfons Casal 以下「カザール」と略す。) の持ち物であった。カザール (1888 年～1964 年) は、スイスのフォルカート・ブラザーズ社大阪支社に赴任する形で 1912 年に来日した。1916 年に同社を退社後も日本に居住し、いくつかの会社 に在籍しながら、日本の美術品を蒐集、1964 年に亡くなるまでの大半を、神戸市須磨区塩屋毘沙門山やジェームス山等で過ごした。

漆器をはじめとする 4000 点以上のコレクションのほとんどは、大阪市立美術館に所蔵されている。同館では定期的にコレクション展が行われており、2017 年 11 月 28 日から 2018 年 1 月 21 日の期間中「カザールコレクションと私たちと未来と」が開催され、約 200 点の漆器が展示されている。上記のコレクション展では、初公開としてカザール邸の陳列室などを写したガラス乾板が 6 点展示されていたが、他の美術品と違ってこれらの記録媒体については未だほとんど研究がなされていない状態である。そのため、映像メディアは貴重な資料であると思われる。

フィルムの調査を始めるにあたり、2017 年 12 月 25 日に神戸映画資料館の協力を得ることができた。おおまかに分けて、既製品を購入したもの、個人で撮影しアメリカ・コダック社に送って現像した未編集のものの 2 つの種類があり、記録されている内容は、当時の在日外国人の生活を記録したものや「みなとの祭」の記録映像などであることがわかった。

カビや汚れなどの付着はあったが 80 年ほど経過したフィルムにしては良い保存状態であっ

た。しかし、若干ではあるがフィルムの劣化のサインである酢酸臭がしていることから、デジタル化が急務である事は変わらない。

3. みなとの祭

デジタル化するにあたり、選んだフィルムは「MINATO-MATSURI」と「untitled」である。神戸映画資料館での調査で、フィルムの一部を調べた結果、この二つが「みなとの祭」の動画である可能性が高いことがわかった。「MINATO-MATSURI」はタイトルがフィルムの事前調査で見つかったため、日付からも第1回目の「みなとの祭」であることもわかった。(図②を参照)

今回のフィルムのHDテレシネ作業およびデータ変換作業は全て株式会社IMAGICA ウェスト(現:株式会社IMAGICA Lab.)に依頼した。「MINATO-MATSURI」は約13分、モノクロ、サイレントである。「untitled」は約1分、モノクロ、サイレントである。

今から85年前の1933年(昭和8)に神戸で大きな祭が初開催された。11月7日、8日の二日間にわたって、開催された祭は「みなとの祭」と呼ばれ、現在の神戸まつりやみなとこうべ海上花火大会などの源流とも言われている。

1933年(昭和8)の初開催は新聞社をはじめ、広く報道され、その様子は数多くのプロやアマチュアカメラマンによって動画や写真などで記録された。そして、今回、発見したフィルム「MINATO-MATSURI」もその一環として、製作されたものである。

4. 中島映画撮影製作所

動画を製作したのは、ラベルから中島映画撮影製作所であることはわかった。さらにフィルムの冒頭にも「中島映画」と映し出される(図③を参照)。

「映画年鑑 昭和十七年」(日本映画雑誌協会編, 1943年)では中島映画撮影製作所は1912年7月創立、住所は湊町3であり、ラベルと一致する。神戸に存在した貴重な映画製作会社



図② フィルムの事前調査で見つかったタイトル部分



図③ 中島映画のロゴ

であるが、謎の多い会社でもある。たとえば、会社の表記に関して、「中島キネマ」や「中島映画」、「中島映画製作所」、「中島活動写真機械製作所」、「中島映画撮影商会」、「中島活動写真商会」と様々な呼び名がある。（世良，2016年）今回発見したラベルには「中島映画撮影製作所」と明記されていることから、そこに新たな表記が追加されることとなった。

分かっていることは経営者が中島才吉であり、劇映画「罪の悶え」や「月照と西郷」などを製作し、更に初期の沖縄映画の製作にもかかわっていた。

5. ニュース映画

動画の冒頭部分、「中島映画」の社名のあとに「ニュース」と映し出される（図④を参照）。はじめは、一体何のことか分からず、保留していたが、調べてみると面白いことがわかった。現在、ニュースは当たり前のようにテレビで放送されているが、テレビ放送が開始される以前は、映画館でニュースは映画として上映されていた。ニュース映画は主に皇室や戦争、災害の作品が多く、中島映画撮影製作所も支那事変を撮影し、県庁に納めていたと中島才吉の甥の妻、中島ミエ子は伝え聞いていた。それらのフィルムは、第二次世界大戦の空襲によって、全て焼失したと思われていた。しかし、幸いにも、本フィルムは外国人居留地に住むカザールが所有していたため、難を逃れたのである。

上記の皇室や戦争、災害などには当てはまっていないにもかかわらず、ニュース映画化されたことから「みなとの祭」の規模の大きさも伝わってくる。

6. 祭の女王戴冠式と松蔭

第1回みなとの祭では様々な催し物が神戸の各地で行われており、それらを表1にまとめた。そして、それらの催し物の中から「祭の女王戴冠式」に注目した。

当時の神戸市の8区（灘区、湊区、湊東区、葺合区、林田区、兵庫区、神戸区、須磨区）から一人代表（祭の王女）が選ばれ、その中から「祭の女王」を決める現在のミス・コンテ



図④ ニュースのロゴ

表1 第1回「みなとの祭」イベント一覧

日程	時間	名称	場所	内容	備考
11月7日	9:00	神事祭典	大倉山公園	修祓、降神、献饌	
	10:00	学校児童生徒体操大会 旗行列	東部地域は旧関西学院跡、 西部地域は市民運動場	マスゲーム	
	11:00	祝賀飛行	神戸又新日報本社～福原花街	ピラ撒布（20万枚）	神戸又新日報社の依頼
	13:00	祭の女王戴冠式	兵庫突堤	ミス・コンテスト	
	13:00	国際大行進	兵庫突堤出発	装飾自動車パレード	
	19:00	神戸ナイト	堤防	花火、大篝火、 海上提灯行列、 イルミネーション、 花電車、花自動車等	
	19:00	音楽演奏	湊川公園音楽堂、 東遊園地外人劇場	演奏会、演舞	
11月8日	10:00	スポーツ諸会	神戸市役所正門、 市民運動場、長田射撃場 東遊園地、須磨海岸	駅伝、サッカー、 野球、射撃、相撲、 ラグビー、 ボクシング、 ボート競技等	各種連盟に任せ開催
	12:30	懐古行列	大倉山公園出発	時代絵巻パレード	
	12:00	市民大祝賀会	中央卸売市場	-	朝香宮妃殿薨去につき中止
	13:30	福原太夫道中	福原櫻筋	太夫道中	神戸又新日報社協賛
	14:00	野外劇	市民運動場その他	-	
両日	-	市内装飾	-	国旗、提灯掲揚	
	-	船舶装飾及び軍艦拝観	-	-	
	-	菊花展覧会	大倉山公園、湊川勸業館	菊の展覧会	
	-	港湾巡覧	-	乗船遊覧	
	-	地方舞台	葺合区：二宮神社境内他2箇所 灘区：灘区役所北側広場 神戸区：相生橋署西側他1箇所 湊東区：大倉山下安養寺前他1箇所 兵庫区：七宮神社境内他4箇所 林田区：鐘紡空地他2箇所 湊区：大王橋北側埋立地 須磨区：須磨区役所裏	唄と踊り、落語、 独唱、合唱、芝居、 オペラ等	
	-				

※（神戸又新日報, 1933 年）、（杉島威一郎, 2007 年）より作成

ストのような催しが行われた。推挙される女性は「満 18 歳から満 22 歳まで、未婚者、身長 155cm 以上、容姿端麗、善良なる家庭の淑女にして名誉の奉仕に適任者」（杉島, 2007 年）であることが条件であった。これらの条件をクリアし、各区の代表になる女性は教養も求められたため、神戸市内の女学校も卒業しているだろうと予測し、この祭の王女の中に、松蔭生がいないか探すことにした。

1933 年（昭和 8）11 月 4 日の神戸又新日報に各区の代表のプロフィールが掲載されていたため、情報を表 2 にまとめた。

兵庫区の代表（祭の王女）松田演子の紹介において「松田演子さんは兵庫区南仲町 19 号油商松田文蔵氏の長女で本年二十歳、一昨年神戸私立松蔭高女を卒業した才嬢で、多方面にわたる多方面にわたる□な御趣味をもたれてゐるが、長唄には特に熱心でしとやかなお嬢さんだ（後略）」（神戸又新日報, 1933 年）と掲載されている。

偶然ではあったが、兵庫区代表の「祭の王女」松田演子が松蔭高等女学校の卒業生であるとわかった。

動画の中に登場する、どの人物が松田演子なのかを確かめるために、各区の代表の名前と写真が掲載された昭和 8 年 12 月発行の「みなとの祭国際大行進写真帳」を閲覧した。しかし、動画と写真による人物の比較や見分け方が難しく、この資料だけでは確定できない。

神戸又新日報の記事によると 1933 年（昭和 8）の一昨年、1931 年（昭和 6）の卒業生（高女 16）だとわかったため、当時の松蔭高等女学校の名簿などを調査することにした。

まず、はじめに松蔭中学校・高等学校の資料室にて松蔭の同窓会「千と勢会」が昭和 9 年 11 月に発行した千と勢会会員名簿を閲覧することができた。そこに 1931 年（昭和 6）卒（高女 16）の B クラス（51 ページ）に松田演子が在籍していた。更に、専攻科（昭和 7 年）（専攻 2）にも進み卒業していたこともわかった。

次に、千と勢会館にて松蔭女子学院の資料を集め、保存し、研究を行っている千と勢会会員の吉村厚子から 1931 年卒業アルバムを拝見する機会をいただき、顔写真を確認できた。

これらの写真と動画を比較し、松蔭女子学院の在籍記録も存在することから、本人である

表 2 第 1 回「みなとの祭」祭の王女プロフィール一覧

区	氏名	学校	年齢	備考
灘区	生島民子	私立甲南高等女学校卒	21	祭の女王
兵庫区	松田演子	私立松蔭高等女学校卒	20	
葺合区	林 茂子	県立第二高等女学校卒	22	
湊区	松浦保子	県立第一高等女学校卒	21	
湊東区	菅 久江	市立第二高等女学校卒	22	
神戸区	山本周子	県立第二高等女学校卒	20	
林田区	塩谷信子	私立親和女学校卒	21	
須磨区	能勢和子	県立第一高等女学校卒	19	

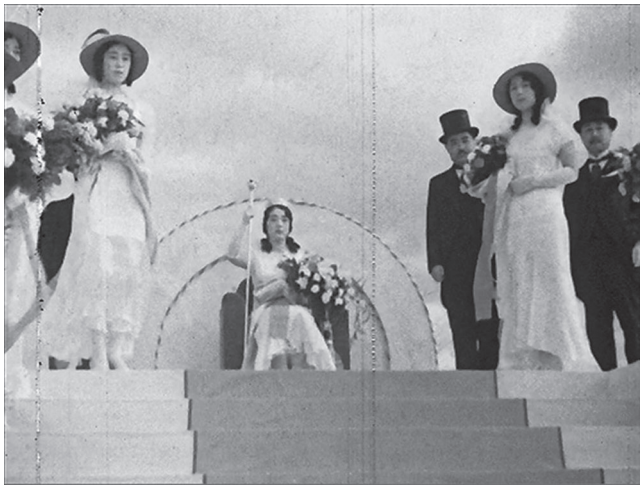
※（神戸又新日報, 1933 年）より作成

ことを確認できた。松田演子が動画に映っている箇所を図⑤と図⑥に示す。

さらに松田演子を調べてみると、第1回「みなとの祭」のテーマ曲「みなと音頭」のレコードを発行していたタイハイレコードの松田社長の姪でもあった。松田社長は11月2日に神戸又新日報社へ宛てて祝電を送っている。「みなと音頭」は全国的に広まり、その後続く、みなとの祭はもちろん、盆踊りなどでも慕われ続けた。

近年に発行された松蔭女子学院の歴史資料には、「第1回みなとの祭」の「祭の王女」に松蔭卒業生が選ばれていたことはどこにも記されておらず、新たな発見に至った。

さらに第1回「みなとの祭」の翌年、1934年（昭和9）に発行された「千と勢 第二十六号」に松蔭高等女学校専攻科2回の代表者が同窓生に向けて執筆した下記の文章がある。



図⑤ 祭の女王戴冠式の壇上 右の白いドレスの女性が松田演子



図⑥ 祭りの女王たち花自動車に搭乗 前列右側に座る女性が松田演子

「松田演子様 バザーでは甲斐々々しくアイスクリームの切符売場で働いていらっしゃいました。神戸中に知れ渡ったあの方の美に魅せられてアイスクリームは澤山売れた事でございませう。」(千と勢会, 1934 年)

何も知らない状態では「神戸中に知れ渡ったあの方の美」とは一体なんのことかわからない。しかし、第1回みなとの祭のことを知っていると祭の王女として選出されたことを読み解くことができる。

7. フィルムの希少性

現在、松蔭中学校・高等学校の資料室に保存されているもっとも古い動画は 8mm フィルムに記録された「修学旅行」(昭和 34 年)である。このことから、第1回みなとの祭の動画が松蔭生の映っている最も古い動画であることが証明される。

更に、本フィルムと同じフィルム、もしくはデジタル化されたものが他の機関に存在するのか神戸市の公共施設を中心に調査した。

神戸市の観光課には写真や動画フィルムは保管されておらず、神戸アーカイブ写真館に全て預けられていた。神戸アーカイブ写真館には第2回みなとの祭の動画がDVDで保管されていたが、第1回は存在しなかった。神戸市文書館には第1回みなとの祭の写真帳やパンフレットなど、紙媒体の資料のみ存在した。神戸市立博物館にはアマチュアカメラマン梶田和三郎が撮影した第1回みなとの祭があり、閲覧した結果、本フィルムとは違った動画であった。神戸映画史料館にもアマチュアカメラマンが撮影した第1回みなとの祭が存在するのみである。これらの調査の結果、中島映画撮影製作所が第1回みなとの祭を撮影したフィルムやデジタル動画は本フィルム以外に存在しなかった。

第1回みなとの祭から 85 年後の同日、2018 年 11 月 7 日に神戸松蔭女子学院大学の図書館にてデジタル化された動画を試写上映した。中島映画撮影製作所の中島才吉さんの姪にあたり、中島映画のことを知る遺族である中島ミエ子さんを招くことができた。動画とラベルの付いたフィルム缶を見て、大変喜び様々なエピソードを聞くことができた。ニュース映画を県庁に納めていたということは知っていたが、戦争で全部焼けてしまい、実際の動画をみたのは始めてであった。このことから現存する希少なフィルムであることが証明された。

8. 第4回みなとの祭のホームムービー

もう一つのフィルム「untitled」は持ち主であったカザールが撮影したものと思われる。フィルムにはみなとの祭に登場する花自動車が映っていた。更に CINE-KODAK PANCHROMATIC SAFETY FILM を使用していたため、フィルムの製造年が分かるフィルムエッジコード「KODAK + ■」(1935 年)が確認できた。同梱の箱に「NOV 17 1936」のスタンプが押されていることから、1936 年(昭和 11)に開催された第4回みなとの祭である可能性が高い。

そして、第4回みなとの祭を調査した結果、第4回みなとの祭国際大行進記念写真帳(神戸市民祭協会, 1936 年)にパレードの参加者による集合写真が記録されていた。本フィルム



図⑦ 第4回みなとの祭 国際大行進参加者の集合写真撮影風景

の動画の最後にも外国人たちによる集合の様子が映し出されており（図⑦を参照）、比較してみると人物や服装が一致したため、第4回みなとの祭の記録であることが証明された。

9. 小磯良平と松蔭

発掘した「MINATO-MATSURI」（第1回みなとの祭）と「untitled」（第4回みなとの祭）の両フィルムともに国際大行進の様子が記録されている。国際大行進は花自動車（装飾自動車）のパレードであり、当時、神戸に住む外国人の参加を促すイベントであった。そして、出場した一般参加の花自動車にはコンテストが催されており、1等、2等、3等には大賞盃が贈られ、その他の参加者には賞牌が贈られた。その審査員の一人を務めたのは神戸ゆかりの洋画家である小磯良平であった。ちなみに、第1回の1等は日本毛織株式会社（ニッケ）であった。

そして、みなとの祭では第1回からポスターが発行されており、第1回のポスターの原画は小磯良平が描いている。そのポスターは現在、神戸市立小磯記念美術館に所蔵されている。一方、原画は消息不明である。ちなみに、第2回のみなとの祭のポスターの原画も小磯良平が描き、神戸市立小磯記念美術館に所蔵されている。

これらの小磯良平の活動から、みなとの祭を通して神戸に大きな影響を与えていたことがうかがえる。そして、同時期に小磯良平は松蔭高等女学校にて洋画を教えていた。

松蔭女子学院は1927年（昭和2）に教師、生徒、卒業生、在学生を対象として、油絵を描く「洋画同好会」が結成された。小磯良平は松蔭高等女学校第9代校長の浅野勇と知友の間柄であったことから1930年（昭和5）に洋画同好会の講師として迎えられ、石膏模写、静物や人物、郊外写生、その指導批評及び美術講話などを行った。

1925年（大正14）、生徒の作文や詩を掲載する文芸誌『壺』が創刊され、1931年（昭和6）の第15号からは小磯良平が表紙の絵を描いた。

1902 年（明治 35）、卒業生の組織である同窓会が発足され、1907 年（明治 40）に同窓会誌「千と勢」が創刊された。1933 年（昭和 8）の第 25 号からは小磯良平が表紙の絵を描いた。

また、1925 年に松蔭高等女学校の制服が制定され、その後、つくられた制帽をデザインしたのは小磯良平であった。紺色フェルトの丸く可愛らしい形で、前部のリボンには三本松をデザインした銀のバッジがとめられていた。

フランス留学から帰ってきた小磯良平はそのセンスを生かし、洋画だけではなく、デザイナーとしても活躍し、松蔭高等女学校に文化の香り高い、新たな校風をもたらした。

1939 年（昭和 14）には、松蔭高等女学校 23 回生の卒業記念として、浅野勇校長作詞、山田耕筰作曲の校歌が寄贈された。その校歌の披露会の席で配られた楽譜の表紙は小磯良平によって、制服姿の松蔭生が描かれた。そのときのモデルを務めたのは、高女 24 回生の文芸部員の佐山房子と舟橋（藤田）保子、片山幸子の三人であった。表紙の一番手前に佐山房子、真ん中に舟橋（藤田）保子、その隣に片山幸子という並びで小磯良平はサラサラとデッサン風に描いた。

松蔭女子学院校歌楽譜の表紙を描いた 2 年後、1941 年（昭和 16）に小磯良平はのちに代表作となる「斉唱」（兵庫県立美術館所蔵）を発表する。また同年には同じモデルだと思われる女性を描いた「少女像（人物 B）」（神戸市立小磯記念美術館所蔵）も存在する。モデルの女性は松蔭高等女学校の制服風の衣装を身に着けているが、細部までよく見ると、白い袖や胸の赤い刺繍「M」のマークなどが無く、色は紺色ではなく黒に近い印象だ。実際にモデルを務めていたのは、当時、小磯良平の絵画モデルだった西島と勝山である。

しかし、同年 4 月の新入生から、松蔭の制服は戦時中、女学校で採用されていた統一服に変更されていた時期があった。小磯良平がモチーフにした衣装がどのようなものだったかは定かではないが、黒い制服はその統一服と雰囲気がよく似ている。

10. 松蔭女子学院の資料

今回、1920 年代から 30 年代の松蔭女子学院について調査をするにあたり、松蔭中学校・高等学校及び、千と勢会館を訪れたが長い歴史のある学院に対し、古い資料が大変少ないことがわかった。その理由は松蔭高等女学校時代の第二次世界大戦による空襲で校舎ごと様々な資料が焼失してしまったからである。今回、発見したことはもしかすると、当時の学院には何らかの資料として残されていた可能性もあったが、情報はすべて失われていた。

現在、懸命に松蔭の歴史資料を集め、保管し、研究を進めている千と勢会会員の吉村厚子をはじめとする千と勢会の今後の活動にも注目していきたい。

謝辞

今回のフィルムをデジタル化するにあたり、1892 年から続く松蔭女子学院の歴史との接点を見つけることを目的とし、著者が代表責任者となり「戦前の映像と写真メディアから松蔭と神戸の文化を再発見」プロジェクトを立ち上げ、2018 年度の松蔭 GP（Good Practice）にて

承認された。プロジェクトのメンバーとはフィルムのデジタル化だけではなく、松蔭女子学院の歴史を振り返り、小磯良平の描いた貴重な資料を展示するなど、大変有意義な経験とともにすることができました。プロジェクトメンバーの田中まき教授(日本語日日本文化学科)、守屋雅史教授(総合芸芸学科)、野田さやか様(総務部)、緋田吉也様(企画課)、山岡奈央子実習助手(ファッション・ハウジングデザイン学科)、岩橋実佳子様(日本語日日本文化学科:4年生)、久保菜那江様(日本語日日本文化学科:4年生)、松盛真実様(日本語日日本文化学科:4年生)、廣瀬早紀様(日本語日日本文化学科:3年生)、藤澤紀子様(ファッション・ハウジングデザイン学科:3年生)、竹本朱里様(ファッション・ハウジングデザイン学科:3年生)の皆様、ありがとうございました。

また、フィルムの調査及び上映を行う際にご協力いただきました神戸映画資料館の安井喜雄館長、神戸新聞社の田中真治様、神戸大学の板倉史明先生、ありがとうございました。

さらに、貴重な松蔭女子学院の資料の閲覧や貸し出しの許可をくださりました、松蔭中学校・高等学校副校長の芳田克巳先生、松蔭中高図書館の眞鍋由比様、千と勢会の吉村厚子様、ありがとうございました。

文献

千と勢会『千と勢 第二十六号』、千と勢会、1934年

千と勢会『「ちとせのたより」同窓会創設百周年記念号』、千と勢会、2003年

日本映画雑誌協会編『映画年鑑 昭和十七年』、日本映画雑誌協会、1943年

校史編纂委員会『松蔭女子学院百年史』、松蔭女子学院、1992年

校史編纂委員会『松蔭女子学院創立110周年記念誌 松蔭 The School of the Pine Shade 1892～2002』、松蔭女子学院、2002年

校史編纂委員会『松蔭女子学院創立120周年記念誌 1892～2012』、松蔭女子学院、2012年

神戸市民祭協会『みなとの祭国際大行進写真帳』、神戸市民祭協会、1933年

神戸市民祭協会『第四回みなとの祭国際大行進記念写真帳』、神戸市民祭協会、1936年

『神戸新聞』2016年5月28日夕刊「キネマコウベ 日本映画史余話8」

『神戸新聞』2016年7月23日夕刊「キネマコウベ 日本映画史余話10」

神戸松蔭女子学院大学校史編纂委員会『神戸松蔭女子学院大学60周年記念誌』、松蔭女子学院、2007年

『神戸又新日報』1933年11月4日「“みなとの女王”八候補決定す」

『神戸又新日報』1933年11月4日「櫻筋に湧く歓呼 艶麗極みなく」

『神戸又新日報』1933年11月4日「絶頂へ踊りの人気」

『神戸又新日報』1933 年 11 月 4 日「輝け“みなとの祭”白羽の栄光・八麗人」

『神戸又新日報』1933 年 11 月 5 日「その夜は輝く 豪華“光”の待機陣」

『神戸又新日報』1933 年 11 月 7 日「本社の祝賀飛行」

世良利和『初期沖縄映画史の諸相』沖縄県立芸術大学博士学位論文、2016 年

杉島威一郎『第一回神戸「みなとの祭」に関する基礎的研究』、芦屋大学論叢、第四十七号、55-64、2007 年

松蔭女子学院七十年史編集委員会『松蔭女子学院七十年史』、松蔭女子学院、1962 年

松蔭女子学院 90 周年記念誌編集委員会『松蔭女子学院 90 周年記念誌 愛と自由と』、松蔭女子学院、1982 年

(受付日 : 2018. 12. 10)